

誇りある国づくりをめざすオビニオン誌

日本の息吹

熊本県民版

発行所
日本会議熊本
担当 山下
事務局 〒860-0005
熊本市内3-1
熊本県神社庁内
TEL 096-322-7484
FAX 096-322-7494
EMal knippon@
crocus.ocn.ne.jp

日本会議全国理事会・総会報告

事務局長 片岡正憲

四月七日(日)、日本会議の理事会・総会が東京で開催されました。

理事会では、本年度の方針が審議・了承され、決算・予算が審議・了承されました。

昨年度は、領海警備等に関する法律の制定や、女性宮家問題等に関するパブリックコメント、衆議院選挙の勝利と、重要な一年となり、本年は参議院選挙に勝利すれば、いよいよ憲法改正が実現できるかもしれない重要な年になります。

総会では、参議院選挙に向け、全国区で日本会議が推薦する二人の候補、有村治子先生、衛藤晟一先生が登壇され、憲法改正などに向けた決意を話されました。

その後、来賓紹介があり、本県からご参加頂いた一区の木原稔先生も紹介されました。

各界からのご提言では櫻井先生が憲法改正に向けた決意を語られ、前名護市長の島袋吉和氏からは普天間の移設問題をお話になりました。まさに辺野古への移設の当事者でもあった前市町から、移設への経緯を時系列で具体的に語られました。前市町は現在も普天間の危険性を除去し、辺野古移設を促進する会合を開いても、千名や二千名の規模で人々が参加してもマスコミ

ミが全く取り上げず、少人数でも左派が行った反基地の行事は大きく取り上げる現状を話され、沖縄への支援を訴えられました。最後に、日本会議熊本が長年の日本会議での活動を評価頂き、活動功労地区として表彰されました。会を代表して花吉副会長が表彰状を受け取られましたのでご報告させていただきます。

熊本県特別殉国者英霊顕彰碑清掃活動報告

会員 山下正順

去る、三月二十日、春分の日に龍田霊園内の熊本県特別殉国者英霊顕彰碑の清掃及び慰霊祭を行いました。熊本県特別殉国者英霊顕彰碑は県出身のA、B、C級戦犯として、正当な裁判を受けることもなく処刑された方々を顕彰するため建立されたものです。

当日は朝から強い雨が降っていましたが、清掃を始める頃には小雨になり、無事清掃をすることができました。顕彰碑の廻りにたまった落ち葉をかき集め、石碑をたわしやタオルで磨き上げ、すっかりきれいになりました。

慰霊祭では、国歌斉唱の後、英霊の中のお一人の残された文章を読み上げ、参加者全員でお焼香をしました。私たちの歌う国歌を聞いて、近くを通りかかった方が飛び入りで参加され、厳粛な雰囲気の中、執り行う事が出来ました。

顕彰碑の廻りには、薄紅色の桜が咲き始め、英霊も喜ばれたのではないかと思います。

今後清掃活動を行って参りますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

5・3講師論文紹介 強大な「中国海警局」が牙をむく
東海大学教授・山田吉彦（産経新聞三月二十七日付「正論」より）

中国は全国人民代表大会で、国家海洋局の中に海洋での警察権を行使する部門を統合した「中国海警局」を創設し、習近平・新国家主席の指導の下、「海洋強国化」を推進する態勢を固めた。海警局は、人民解放軍とは別個の、行政組織直属の艦隊ともいべきもので、初代局長には武装警察を束ねる公安省の次官が就任した。

〈アジア最大の海上警備機関〉

東シナ海での中国公船の動きはここ数カ月、活発化していた。尖閣諸島周辺の日本領海内への侵入頻度、滞留時間ともに増え、二月には日本漁船が中国公船に追尾される事態まで起き、最新鋭の大型警備船の投入など装備面も強化された。海警局創設への布石を打ち、東シナ海を「核心的利益」と位置付けて計画的、組織的に動いている表れだったとみていい。

中国の海洋進出は、「世論戦」「心理戦」「法律戦」の三戦理論に基づき進められてきた。

世論戦では内に向けて、海洋強国化を宣言し、資源エネルギーや水産資源の確保などを喧伝（けんでん）し、海の重要性を国民に周知している。外に対しては、国連などの舞台を利用して、南シナ海、東シナ海における島々の領有の正当性を勝手な理屈で国際世論に訴えている。日本をはじめベトナム、フィリピンなどに対し領有権争いを挑み、恫喝（どっかつ）外交や貿易規制、国民動員の抗議活動などにより心理的圧迫を加える戦術を展開している。

法律戦では、領海法、海島保護法などの海洋権益の根拠となる国内法の整備を進め、そつした独善的な法体系を守るために

武装警備機関の創設を目指してきた。それが海警局というわけである。

従来、中国の海洋警備機能は、「五龍」と呼ばれる五つの組織に分散されてきた。海洋調査・管理を担当する「海監」（国家海洋局所属）、海の治安部隊である「海警」（公安省）、漁民と漁場を管轄・管理する「漁政」（農業省）、航行安全を守る「海巡」（交通運輸省）、そして密輸取り締まり船（税関総署）である。

このうち海巡を除く四つの海洋警備部門を一本化した。統括する船艇は三千隻超と、日本の海上保安庁をはるかに凌ぐアジア最大の海上警備機関となった。

〈日本漁船拿捕の事態を防げ〉

海保が恐れるのは海警局による法執行である。尖閣諸島海域に出没する公船が警察権を持つことは今後、日本の漁船が拿捕（だほ）され漁民が逮捕される事態を予測させる。仮に漁船が捕まって中国に連行されでもしたら、日本政府はどのような手を打てるのだろうか。

北方領土海域では、ロシア（旧ソ連）に拿捕された日本の漁船、漁民は泣き寝入りするほかなかった。韓国が一方的に不法に定めた専管水域、李承晩ラインを越えた多くの漁民も犠牲になった。

それ以上に問題となりそつなのは、海警局部隊が中国漁民を伴ったりして尖閣上陸を強行した場合である。軍による侵攻とは違って警察権の行使となり、自衛隊の投入は困難となる。当然、日米安全保障条約第五条の適用外だ。

中国は、海警局を前面に押し出して海軍を温存することで、中国よりも優位に立つ日米の海軍力を制約できる。海警局の登場は、東シナ海における米国の影響力に歯止めをかけることに

もなる。(～後略～)

二月二十一日に開催した憲法フォーラム(櫻井氏・百地氏講演)の参加者アンケートをご紹介します。

殆どの内容は周知しておりましたが、演者の気迫が直接伝わり、あらためて日本人が浮かれている状況でないことが判りました。

六十七歳男性

中国の戦略を詳しく易しく解説して下さり、大変分りやすい内容でした。ジョン・F・ケリーが中国寄りになってきている事はあまりメディアで報道されません。しかし、大事なことを知る事が出来ました。と同時に強い危機感を抱きました。今動かなければならないと思いました。

三十一歳

憲法改正がなぜ必要なのか、順序立てて話されたので非常に分りやすかった。今の日本がどれだけ危険な状態に置かれているのか改めて理解するとともに、この危機的な状況を全国民が知り、全国民でこの日本を守っていかねば、将来の日本はないなと思った。まずは、身の回りの人に、今日聞いたことを伝えていきたい。

十九歳女性

櫻井よしこ先生の講演は本当に素晴らしいものでした。中国での反日運動がすごいものとは聞いていましたが、本日のお話を聞く中で、背筋が寒くなる思いでした。またアメリカも内向きになっており、中国と手をつないでいこうとしていることをお聞きし、日米安保条約も効力が少ない、是非憲法を改正し、日本は自分たちの力で守るのだと思いました。 六十代女性

【新連載】台湾と熊本・第二回「六十先生」その2

平井数馬の来歴

理事長 多久善郎

平井数馬は、明治十一年七月二十六日に松橋町で生まれた。六人兄弟の四男である。一家は、西南戦争の戦火に遭って熊本市から移り住んでいた。数馬出生の翌年には熊本市の新屋敷町に移転した。数馬は手取小学校に入学し、高等科を経て、中学済々黌に入学した。成績は優秀で団長を務め、剣道・柔道・水泳が得意だった。特に柔道の腕前は師範も認めていた。後に芝山巖で非命に斃れた時も、土匪を組み伏せて戦った逸話が残っている。済々黌は明治二十四年に他の私学四校と合併して「九州学院」となり、普通科・専門科を擁していた。二十七年には普通科が、熊本県尋常中学済々黌として再び分離し、九州学院には専門科のみが残った(明治三十年には閉校)。平井は二十八年一月にその九州学院支那語学科に進み、六月には終了した。通訳官を目指した平井は、知人の斡旋で台湾総督府雇員民生局内務部に採用され、八月十七日に台北に到着した。二十四日には学務部に移り、学務部が置かれた芝山巖学堂の舎監に任じられた。芝山巖のある士林地区は、学問が盛んな所だった。日本語教授の呼びかけに応じて、地元の青壮年二十七名が三組に分かれて学んでいた。その殆どが平井より年長だった。平井は語学の才に優れ、九月には『軍隊憲兵用台湾語』の原稿を草しているが、発音の片仮名表記は細かく正確だった。平井はその書に「微笑生」と自らを称している。

【日本会議豆知識百六十二】

中国は何時滅亡するか

副会長 花吉 洋一

中国は 十年以内には、亡びるだろう。

理由は、あまりにも経済格差が激しく、国民 大衆の不満が渦巻いていて、何時、暴発して、反政府、革命運動に発展しかねない。

年間 千万件の暴動が起きている。一日に、平均五百件となる。

中国政府は、ガス抜きを為、小崗別荘問題で、一日百元(千五百円)の手当で、反デモをさせているが、民衆は「反日」を絶叫しながら、

日本製の自動車、商店、工場を破壊したが、それが反政府デモに変化しかねないので、途中で、中国政府は中止させている。

中国は、六〇年前に、毛沢東が、共産主義の国家建設の宣言をした。前半の三〇年間は、北朝鮮の様に、貧乏だったが、平等だった。

その後、鄧小平が、改革開放路線をとり、「豊かになりたい者から、豊かになれ」と、市場経済の社会主義をやった。

すると、権力者が、立場を利用して、人口の1%が、国民の稼いだ富の四〇%を独占した。

日本の様に、累進課税や相続税で、富を分配する事もなく、健康保険も年金もない。

江沢民は大財閥だし、温家宝も、千四百億円の財産を持ち、習近平主席も五百億円の資産家だぞうだ。権力者達は、富をひそかに外国に移転させているが、それが年間十兆円で、子供は外国に留学させ、何時でも逃げ出せる。

経済状況、国民所得、富の分配状況、その他の統計数字を分析すると、何時革命が起きて、国家が崩壊しても、おかしくない。

と、何時革命が起きて、国家が崩壊しても、おかしくない。

【行事案内】

第十四回憲法シンポジウム

日時 五月二日(祝) 十二時半

会場 熊本県民交流館パレアホール(十階)

演題 驚くべき日本国境の現実!

～ 海洋国家日本の目指すべき進路とは～

講師 山田 吉彦氏(東海大学教授 海洋学専門)

入場料 前売券千五百円、 当日券 千円

学生・日本会議熊本の正会員以上は無料

学生証・会員証を提示下さい

平成二十五年度中部支部総会

日時 五月十七日(金) 十四時

会場 クレインパレス(上益城)

講師 馬場 成志氏(前熊本県議会議長)

平成二十五年度会志支部総会

日時 五月十九日(日) 十六時

会場 ユーパレス弁天(会志市)

講師 坂本 泉氏(菊池神社宮司)

日本女性の会熊本県支部平成 二十五年度総会・記念講演会

日時 五月二十五日(土) 十二時半

会場 熊本県護国神社英霊顕彰館

講師 多久善郎氏(日本会議熊本理事)

演題 伊勢神宮・出雲大社の式年遷宮の歴史と文化